

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	沖縄県宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	令和2年 8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年 10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4770500132-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4770500132-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑顔で対応を心掛け、入居者様に喜んでもらえるように接しています。入居者様の出来ることを活かせるように声掛けをしています。調理支援や洗濯物たたみ、下肢筋力体操など日々コツコツと支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地を見下ろす高台に法人施設と同敷地内に立地している。認知症を持つ人が主体者として生活することを理念とし、食事時間や入浴方法、座席等利用者本人の意向を尊重している。認知症を持つ人の能力、できなくなったから終わりではなく、できることはないかを見極め、継続していきけるように環境を整えている。管理者は、事業所で調理することの重要性を折に触れ職員に伝え、職員も理解し、利用者が調理、トレイやテーブル拭き、下膳等を行えるよう支援し、食事も共にしている。排泄の自立支援は、利用者の下肢筋力低下防止の目的で体操に取り組む一方で、おむつエキスパートと常におむつ使用の可否や量、当て方等を話し合い、排泄ケアに対する認識を職員間で共有している。新型コロナウイルス感染症防止対策としての外出制限がある中、利用者が楽しめるよう花を生けたり、面会や散歩の工夫、行事やおやつ時に入居者の要望を取り入れるなど、利用者への生活支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつでも見える所へ掲げ職員共有している。理念に基づいて入居者様の出来ることを引き出せるように支援している。	理念は地域密着型サービスにも配慮され、職員が常に意識できるよう台所やトイレ等に掲示している。理念で「利用者を生活の主体者として支援すること」を掲げ、職員間で共有し、日常生活が利用者の視点で過ごされているか、ケアが実践できているかを意識することを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、地域自治会のお祭りへ参加したり、職員としては認知症の勉強会などボランティアを行っている。	運営推進会議開催時に自治会長等から地域行事等の情報を得ている。例年参加していた祭りは、自治会側が規模縮小のため叶わなかった。老健施設から入居した利用者が、セラピー犬と一緒に敷地内の同施設を訪問する等の交流を持ったが、今年度は、感染症防止のために中止されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会などの認知症の勉強会や、法人の認知症研修などの講師派遣を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行っている。自治会の参加者も多く、地域の情報やホームでの現状などを話し合い共有している。	運営推進会議は昨年8月から定期的に開催し、報告や意見交換をしているが、4月以降は感染防止のため中止している。委員へ開催中止のお知らせと報告資料等を配布して意見や要望等を求めたが、回答は得られていない。会議への家族の参加が確認できず、更に、利用者は会議で他の委員と意見交換をしているが、議事録には記載されていない。外部評価結果については、委員に報告し、家族会でも報告している。	止むを得ず中止する際、各委員からの意見や要望等をどう引出するのか、取り組みの工夫が求められる。利用者も一委員として、会議での意見は議事録に記載してほしい。家族が何故参加できないのか、開催時間等、委員間での検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、市GH連絡会、認知症キャラバンメイト会議などで意見交換等を行っている。ケアマネ業務の中で介護長寿課とのやり取りなどを行っている。	感染予防等、事業所関連の情報は行政からメールで伝達され、運営推進会議でも報告を受けている。行政担当者や市内グループホームの管理者が参加する会議が定期的に開催され、情報交換が図られている。グループホーム管理者間で災害時の協力体制の構築についても相談している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針に基づいて職員へ伝達し、勉強会を行って理解をしてもらっている。定例会にて事例検討やアンケートを実施し、その内容を運営推進会議で報告している。	身体拘束等適正化のための指針を作成し、毎月のミーティングで検討し、2か月に1回の運営推進会議では、職員へのアンケート結果や研修等を報告している。職員からの「利用者の状態ではミトン等が必要では」との意見に対し、委員会で検討して拘束の要件を満たさない、妥当ではないとしてケアの見直しを図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会やおもとの会の勉強会で学び、職員への理解に努めている。言葉かけの注意点にも気を付けている。	高齢者虐待防止について、虐待の種類等の資料を参考に定期的に研修を実施している。管理者は、職員の言葉遣い如何では「利用者を物に見ている」、「命令口調」等と捉えられるとして注意を促している。高齢者虐待防止関係の資料は揃えているが、マニュアルが確認できない。	高齢者虐待防止のための具体的なマニュアル作成が求められる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで後見人制度対象者がいない為活用することがないが、勉強会で職員共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分に時間をかけ説明を行っている。家族からの問い合わせにも対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の内容や年二回の家族会にて情報共有している。面会などで頂いた情報は職員間で共有している。	利用者の多くはコミュニケーションが図れるので、直に意向や要望を聞いている。意思疎通が厳しい場合は、家族、職員の情報を収集して対応している。家族の意見は、家族会や面会時、電話等を活用して聞いている。家族から「コロナでも面会できる方法はないか」との要望に対し、2重扉の構造を利用してガラス越し面会で対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会などで意見交換を行っている。業務改善や入居者様の活動等職員からの意見を反映している。	職員は月1回の会議等で意見を述べている。職員の心身や状況等に配慮し、夜勤勤務を外して日勤のみに変更したり、リフレッシュ休暇を取り入れている。設備等への要望は、管理者が年1回のヒアリングで稟議申請をし、今年は冷房機の取り替えが実現している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で人事評価を取り入れており、モチベーションを上げられるようにしている。有給や希望休を募り勤務表を作成している。おもと会の研修など勉強の機会も設けている。	就業規則で、職員の勤務に関する諸々の決まりごとが規定されている。給与、年休、研修、健康診断等も記載され、年1回、人事考課も実施している。感染予防で外出自粛が増え、職員のストレスにも対応できるようメンタル研修も実施し、リフレッシュ休暇も取り入れている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会の参加、メンタルヘルス研修、県GH協会の勉強会等参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宜野湾市GH連絡会や認知症キャラバンメイト研修、小規模、老健などの交流を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族へ聞き取りを行い、プラン作成などの際にも意見交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて要望など確認し、日常的な面会の際にも職員側から家族へ声掛けしコミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議等で十分に話し合い、希望に添えるような支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、ご家族様と共に共同生活者として接し、何でも話し合える関係性を心掛けている。できること出来ないことを見極めながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ面会の際にホーム内の出来事などをお知らせし、入居者様との会話に役立てるように情報提供している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご兄弟の面会などを行っている。一部の入居者様は地元にご家族と遊びに行かれる場合もある。	外出制限中だが、感染防止に努めながら、旧盆に家族と一緒に外出した利用者もいる。これまで、病院受診後に利用者と外食していた家族が、感染を恐れ、中止したことに対し、管理者は、感染防止に努めながら公園等でも楽しめることを提案している。家族にオムツを届ける役割を持ってもらうことで、利用者与会える機会を増やす等の工夫もしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通してお互いに協力したりしている。それぞれ役割を持っている、時々トラブルになる場合もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族からの相談などにも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議や日常的な会話の中での希望や要望等をできる限り寄り添える体制をとっている。ご家族への協力依頼も行っている。	職員は、利用者との日常会話から「数字並べをしたい」、「計算をしたい」との声を聞き支援している。難聴の利用者が写真を見ている様子から、家族の協力を得ながら、写真や歌詞カードを入れたアルバムを作成し、利用者の喜びに繋げている。また、ベッド上の生活を居心地良く過ごせるよう、好きな音楽、民謡等を流したところ、目を開けて見回す等の様子が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族からの情報をもとにその環境に近づけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや職員間の情報共有を行い、現状把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族はもちろん、定例会などでの情報共有することで課題整理や問題点を共有し、立案している。	入居者、家族、職員との話し合いで計画を作成し、半年に1回、モニタリング及び計画の見直しを実施している。月1回の定例会でも現状の課題等を話し合っているが、随時の見直し内容は、事故報告書の検証を含め、介護計画書からは確認できなかった。	随時の見直しについても、話し合いの結果を介護計画書に反映することが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有と記録への記入、変更などは介護支援専門員へ報告し、見直しなどを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるようにその都度職員、家族へ情報共有を行い改善している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか活用できていない現状。要望に添えるようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様個々に主治医を持っていただき、状況によっては訪問診療へつないでいる。元々の主治医なので安心感はあると思う。ホームに看護師の配置があり安心も得られている。	利用者のかかりつけ医受診継続を支援し、受診の際は、看護師が作成した情報提供書を家族に渡し、受診結果も文書や家族からの報告で確認して不明点は電話でも確認している。病院受診が難しい場合は、職員の同行や訪問診療により、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師へ日頃の状況を報告し、指示をもらっている。看護から基礎知識の勉強会なども行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時面会し、看護師や主治医より情報をもらっている。急変時や急な受診への対応など早急にできるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に基づき、入居前に看取りの説明、途中でも再確認を行っている。職員は勉強会や、現在までの経験を共有し、スキルアップを行っている。入居者様の状況によっては訪問診療への移行案内もしている。	看取りに関する指針を整備し、訪問診療と連携し、看取りに対応している。研修や勉強会を実施し、現在看護師を含め喀痰吸引可能な職員が4名いる。看取りにおける家族の役割の重要性を認識し、新型コロナウイルス感染症防止に努めながらの面会の在り方について検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、夜間帯は常に携帯している。医療的な面は看護師より勉強会を行ってもらっている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回行っている。現在は老健、小規模と合同にて行っている。自治会への消防訓練実施案内も行っている。	夜間想定消防訓練は、同敷地内の老健と小規模多機能型介護事業所との合同訓練として実施している。5月に予定していた日中想定訓練は、コロナウイルス感染症防止のため10月に延期している。地域住民にも協力を促しているが、多忙を理由に参加はない。災害時の備蓄は老健内で管理されているが、内容は把握されていない。市内グループホーム間での、災害時相互受け入れ方法について、関係者と協議中である。	備蓄品の内容を早急に把握し、不足品の有無や必要量について確認することが求められる。グループホーム間での、災害時相互受け入れの仕組み構築の実現を期待したい。



自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排せつなどの声掛けなどにも工夫を行っている。できるだけ配慮を行っている。排せつの失敗などにもさりげなくトイレ案内できるようにしている。	職員の利用者に対する馴れ馴れしい言葉遣い等が気になる時は、管理者が「利用者にとってはどういう気持ちか？」という視点から注意したり、ミーティング等で話し合い、常に尊厳あるケアを意識し努めている。トイレのカーテンが課題となっているが、改修されるまで、カーテンの縁とトイレの柱に磁石を付け、きちんと閉まるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中での入居者様から出てくる言葉をくみ取り、自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あらかじめ決定している体操などはその日の気分に合わせている。できるだけ参加できるような声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などはご家族と一緒に買い物へ出かける方もいる。散髪などは本人に確認し、ヘアスタイルを決めてもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士のメニューをもとに調理を入居者様と共同にて作成している。できることを手伝ってもらっている。片付けも歩行できる方は自分で片づけてもらっている。	管理者は事業所で調理することの重要性を折に触れ職員に伝え、職員も理解し、利用者が調理、トレイやテーブル拭き、下膳等を行えるよう支援し、食事も共にしている。献立は決まっているが、パンとコーヒーやご飯、あちびーの希望に応じている。行事やおやつ時に利用者の希望を聞いてソーメンチャンプルーやたこ焼きを作ったり、誕生会には職員手作りのケーキで祝うなど、食を通して楽しむ支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の疾患等に合わせ、管理栄養士の指導の下分量を決定している。水分も食事以外に10時15時の他自由にお茶が飲めるようにキーパーをホールに設置している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを行っている。夜間帯は義歯洗浄剤などでメンテナンスを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンを記録し使用量削減に努めている。日中の声掛けを行い、トイレ案内を行っている。おむつのケアエキスパート研修へ参加しおむつ外し、自立に向けた取り組みを行っている。	おむつケアエキスパート研修修了者が3名おり、常におむつ使用の可否や量、当て方等について話し合い、排泄ケアに対する認識を職員間で共有している。利用者の排泄パターンを把握し、声掛けや環境を整備することで、おむつ外しの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入浴時の腹部マッサージ、ヨーグルトなどを摂取してもらっている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日はあらかじめ決めていたが、その日の気分などで変更など対応している。冬場などは室内の温度にも配慮し気持ちよく入浴してもらえるようにしている。	浴槽は深く、利用者の体勢が安定しないため使用せず、シャワー浴を実施している。入浴日は一応決めていたが、利用者の体調や希望に合わせて、随時対応している。利用者の好きな香りのシャンプーやボディーソープを用意してもらい、リラックスできるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調調整や音楽が好きな方は音楽を流したり、工夫している。ソファで休まれる方もいる。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては看護師を中心に服薬管理表を設置している。いつでも確認できるようにしている。誤薬などがないように各時間の担当職員の配置と服用の際の2名声出し確認を行っている。	看護師が1週間分の薬をセットし、鍵のかかる棚に保管している。服薬マニュアルに管理責任者等、職員の役割が明記され、介助時は職員2人で声出し確認をしている。定期薬保管表で薬の効用等を把握し、残薬量は看護師が家族に伝え、切れないように注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理支援の手伝いやトレイ拭き等役割を提供している。寝たきりの方へは音楽やラジオなどを聞いてもらっている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出する機会もあり、ホーム内では行事ドライブなどを企画し出かけている。浜下り行事は法人2か所のグループホームで合同行事も行ったりしている。	新型コロナウイルス感染症防止のため、以前実施していたドライブや浜下り等は中止され、病院受診や敷地内の短時間の散歩以外は外出禁止措置がとられている。更に家族面会を含め、来訪者は玄関のガラス越しでの訪問に限定される等、外部との接触はできない状況にあるが、感染状況を踏まえた今後の方針については、法人と協議中である。	法人との調整後は、感染防止に努めながらできる外出支援実施の工夫が望まれる。家族には公園等に出かける方法もあるとアドバイスしていることから工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は家族がほとんど、お小遣いを預かっている方もいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年10月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて対応している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはゆったり過ごせるようにソファなどを設置している。廊下には季節がわかる飾りや写真などを張ったりしている。空調も本人に合わせて設定している。	ホールは広々とした清潔感のある空間で、明るい環境が確保され、利用者は好きな場所で思い思いの活動に取り組んでいる。全面ガラス張りの玄関フロアは、コロナ禍における面会場所として活用されている他、そこから外の人や車の様子も見ることができ、見ながら楽しんでいる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど三か所設置しており、廊下には長椅子を配置していて、いつでも座れるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自宅からの本屋写真などを持参している方もいる。基本自由に持参してもらっている。	居室はゆったりとして、明るく清潔感がある。家族に馴染みの物の必要性を説明し、テレビや本、写真等を持参してもらっている。担当職員が衣類や日用品等の不足等について確認して家族に連絡し、利用者が安心して過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表示名前を記入している。名前記入が嫌な方は撤去している。		